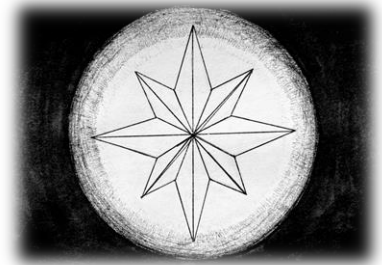




## 平和をつくろう ミサイルよりおむすび

石原艶子



イラスト：大城旋律（孫）

○愛は忍耐強い、愛は情深い。ねたまない。愛は自慢せず、高ぶらない。礼を失せず、自分の利益を求めず、いらだたず、恨みを抱かない。不義を喜ばず、真実を喜ぶ。すべてを忍び、すべてを信じ、すべてを望み、すべてに耐える。

(新約聖書 コリント第一 13：4～7 “愛”の所を“私は”に置き換えてみましょう)

○ケアとは見捨てないこと、見放さないこと、愛し続けるということ。(やまばと誌から)

○赦しなさい。赦さなければ負の連鎖を断ち切ることは出来ず、戦争の温床となる。(艶子)

○平和の種を播く、私たち一人一人こそが希望の光。(艶子)

### ☆私の沖縄・・・

○辺野古ゲート前には機動隊、警備員に取り囲まれながら座り込みを続ける人たちがいる。

○安和港、塩川港ではダンプの前を牛歩しながら抗議する人たちがいる。

○嘉手納基地ゲート前には早朝から「全基地撤去」を叫ぶ人たちがいる。

○野嵩ゲート前ではゴスペルを歌い続け祈り続ける人たちがいる。

○辺野古の海では抗議船やカヌーに乗って抗議し続けている人たちがいる。

○県庁前や町角でスタンディングをして“NO ミサイル！”を叫びウクライナ、ガザでの戦争停止を訴える人たちがいる。

○防衛局前では事々に抗議集会を持ち要請する人たちがいる。

○高江の森を看視し、抗議し続ける人たちがいる。

○何か理不尽なことが起きたらすぐに話し合い、大集会を決行する人たちがいる。

私もこの民の一人として部分的であってもこの中に居らせて頂いている。私はこのようなウチナー(沖縄)の民、一人ひとりが愛おしくてたまらないのです。一人ひとりを見ていると胸がいっぱいになって涙がこみ上げてきます。心の内で♪ウチナーも泣いている、と歌っている自分がいるのです。辺野古の海には母の涙が満ちています。母は命を育み、包み込む愛の主体です。母の心で平和を求め、ここに座り込む女性達は決して挫けることなくこの闘いを何十年も続けています。そして命尽きる方たちも沢山いらっしやいます。母の心は打ち砕かれ続け、辺野古の丘も山も切り崩され、弾薬庫と見せかけて実は核貯蔵庫が建設されているのです。私たちは国家権力の前では全く微力であります。然し決して無力ではありません。私は確信しています。ここに座り込み、涙の中で歌い続け、抗議し続けている沖縄の民、この一人一人の存在の重さと尊さです。無心に唯 NO WAR を祈り闘い続ける微力なる私たち一人一人が世界に希望を生み出す存在であることを確信します。絶望的な世界を根底から支えることの出来る人間は今ここにいる私たち一人一人であるのです。一人一人が世界に平和を生み出す存在であることを確信して、党派や団体に関係なく自分の全存在、全生き方をかけて魂を持った一人の人間として声を上げ続けているのです。

### ☆分断されないために

どんなすばらしい理念を掲げた運動体であっても長い間には必ず分断の力が働いて、分裂し自滅していくことが起こり得ます。私たちは決して分断されない市民運動を作り継続していかななくてはなりません。平

和運動では正義と正義とがぶつかり合い、互いに譲り合い認め合うことが出来なければ分裂が生じます。大切なことは情報を共有して、目的のためには力を合せ、自分は何をすべきなのかを常に考えて行動すること。特に大切なことは個人的感情に流されて、自分の感情に支配されてはなりません。故翁長知事が「大きな枠の中で腹八分、五分、四分で力を結集して物事を成就できたらいい、その立場で知事をやっている・・・。」と語っておられたように、正義の自己主張を貫くことではなく、平和をつくるためには互いに尊重し合い、相手の意見をよく聞き、共に闘い共に生きる関係を堅く作っていくことだと思います。互に学び合い成長し、互に喜び合って、決してさまざまな偽情報や分断の力に惑わされない私たちとして頑張っていきましょう。さまざまな新しい運動体が生れていますが目的はひとつです。"絶対に戦争を起こさせない、そのためにいつもひとつとなっていましょう!!

★火事は消すより出さぬが手柄（台湾有事 川柳）

★戦争は勝ち負けなしの地獄ゆき（90歳 中沢昌平）

### ☆ある日の現場から

○ある日の塩川港での抗議行動の時、私とMさんは沢山の歌を歌いながら抗議をしていました。その時、あるダンプの運転手さんが運転席から手を叩いて笑顔で応答して下さいました。嬉しくて思わず私たちも手を叩いて"ありがとう、"と言いました。非暴力の闘いの中からは敵、味方に関係なくこのような人間らしい交流が生れることを嬉しく思います。一緒になってNO WAR 命どう宝!!声を上げましょう。

○辺野古ゲート前テントに行く時は、うつぐみの会の着物リサイクル作品と、あみの会の糸リサイクル作品を持って行って店開きをします。県外から来て下さった人がいる時は、声をかけて協力をお願いして、辺野古基金協力ということで多くの方々が協力して買って下さいます。作品を通して沖縄の人々とつながって下さることは感謝!!大きな力となります。人と人とはつながらなくては、一人では何も出来ません。平和はあなたと私がつながってつながってユイマール、いちやりばちよーでー（一度会ったら友達）青い星（地球）で共に輝く存在になってこそ生れるのだと思います。

○北海道札幌から今年もまたラベンダーの香り袋が沢山届けられました。沖縄に連帯して下さる札幌独立教会の80代の友人からの贈りものです。ラベンダーの香りに愛がいっぱいつまっています。癒しの香りのラベンダー、皆さん1ヶ200円で沢山買って下さいました。沖縄のために何か出来ることをしたいと願う友人達によって、私たちウチナー（沖縄）は支えられていることを実感する瞬間です。!!

### ☆平和への祈り

平和っていいなあー。ソファに寝そべって青い空、変化していく空模様を見ている。青い地球に抱かれている小さな命なる自分の存在、自分という命はどこにつながっているのだろう!!人間の限りなき欲望によって地球は滅びてしまうのか。今すぐに気付こう、足ることを学ぼう、感謝しよう!!決して決して滅びを招いてはいけない。

海も山も大地も星たちもみんな叫んでいる。 海に毒を流さないで!!原生林を切らないで!!ミサイルを飛ばさないで!!核と原発止めて!!宇宙にごみを捨てないで!!天も地も宇宙も人間だけのものではない、すべての命が共生してこそ生きることの出来る人間、青い星なる地球に抱かれ生かされている命であることを知ろう。地球家族なる人類に国境なんてないはずだ。地球市民ではないか?何故殺し合い戦争なんかするのだろうか?世界中の民族が国籍を天に持つことが出来たら、国々や民族の所属は相対化され共存、共生、戦争しない地球家族になれるはず。然し、現実には真逆に見える。道ははるかに遠い。それでもあなたが、わたしが希望の存在となるなら、道は見えてくる。闇の中に、絶望の先に輝いている光はあります。それは愛という光です。

## ☆地球危機のしるし

○ここ数年、夏の猛暑は異状である。気温の上昇は確実に進行している。

○先日、西表島へ行った時に聞きました。大潮の時防波堤を越えて港の奥まで潮が入ったということです。今迄は全くなかったことなので、海水面の上昇が始まっているのでは？と心配でした。

○いわしなどの大量の魚が死んで浜に打ち寄せられています。海の異変？海の酸性化が進行しているのでは？ということ、海藻激減、藻場減少、磯焼けなど海の異変が警告を発しています。

○アフリカでは干ばつの為砂漠化が進み農業が出来なくなり気候難民が行き場を失って漂流しています。

○永久凍土が溶け出し北極の町では地盤沈下が始っています。

☆人類生存の危機なのに戦争なんかしている時ではありません。今すぐに地球回復のために何が出来るのか、国を超えて地球人類として考えなくてはならない時です。

## ☆沖縄差別とは

○人類史は差別の歴史に色どられています。差別は人間の欲望のはきだめ、ごみ捨て場のように存在し続けています。目を見開けば身近な所でもさまざまな差別の現実を見ることが出来ます。差別は強い者が弱い者をいじめる暴力的行為でもあります。強者は相手を見下し差別していても何の痛みも苦しみも感じないのが特徴です。彼等は強者としての優越感に浸り、特権意識を強め正当化して、理論武装します。自分達の権力を維持するために差別を作り出すのです。一方、差別された側には、大きな痛みと苦しみが生じます。反感、恨み、報復などの敵対感情が生まれます。こうして差別は負の遺産の連鎖を生み出し、戦争の火種ともなります。私達が平和を希求する時に、この差別という負の遺産とどうしても向き合わねばならない宿命が生じるのです。この差別ということを沖縄から見つめ、本土で暮す皆さんと共に自分事として共に考えたいと思いました。

○沖縄に住んでいて分ることは、私達は政治的に構造的に、差別された場所に暮しているということです。日本という国が沖縄という差別された場所を必要として、作り出している事実が見えるのです。

沖縄は常夏のゆったりした平和な国でした。中国との交易、交流によって豊かな独特な文化を育み、琉球国として栄えていました。然し、このまま独立国として生きることを日本は許しませんでした。薩摩の侵略により琉球王朝は滅び、やがて琉球は沖縄県として日本国のいち県とされ、日本国に支配されることになりました。太平洋戦争では天皇制護持のために本土決戦を遅らせる捨て石とされ、悲惨な地獄のような地上戦によって県民の4人に1人が殺されたのでした。戦後には天皇メッセージによって米国の占領下に27年間置かれ、米軍による事件、事故、貧困など米軍支配下の圧政に苦しめられてきました。日本国はこのような苦難の中にある沖縄を差別してよい特別な場所として、本土にあった米軍基地を沖縄に移設し、70%余りもの米軍基地を押しつけたのでした。本来ならば戦争で捨て石とされた沖縄には日本人としては絶対にこれ以上の苦しみを押しつけることなど出来ないはずです。沖縄を特別な差別地域としているから平気で出来るのです。第一の差別は戦争中の捨て石作戦、そして第二の差別は米軍基地70%余の押し付けでありました。私達沖縄の民は、米国占領の苦難に耐えられず、こんな日本国を祖国と信じて本土復帰を大半の人達が願うようになり、そして51年前、本土復帰は実現しました。米軍基地のない沖縄になれると信じていたのです。然し、すべては虚偽でぬりかためられ、沖縄は戦後78年の現在も米軍基地の島として固定化され続けています。これが第三の沖縄差別です。そして差別は辺野古新基地建設の強行として現在進行中です。先に記した私たち県民の闘いの現実には真に国による沖縄差別との闘いでもあるのです。故翁長知事は沖縄のアイデンティティーの魂で日本政府と向き合った政治家でした。

○政府は沖縄県民を日本国民として見ていない

○沖縄の人々の自己決定権や人権はないがしろにされている

○あぜんとした。裁判所は政府の追認機関であることが明らかになった

○われわれがどう話しても大きな力が押しつぶして通り過ぎていく。国家の品格を信じられなくなるくらいさみしいことはない

○本土の政治家の無理解は背筋が凍るような思いだ

○日本の安全保障体制は沖縄という砂上の楼閣に乗っている

まだまだ沢山ある故翁長知事の言葉はすべて沖縄差別と真正面から向き合っの真実な叫びです。

故翁長知事の下で誕生したオール沖縄は、知事亡き後試練に合い続けながらも、今も生きています。然し、日本政府の圧力の下にあって、各市町村の首長は国に追従する保守政治家が多くを占めるようになり、玉城知事を苦しめています。先日の県議会において玉城知事が「辺野古新基地建設」と言ったことに、自民会派が反発し7時間も休憩となったことには唾然としました。自民会派は国側の呼称「普天間飛行場代替施設建設事業」を使うよう求めたというのです。こうして国の沖縄差別に飲み込まれてしまい、沖縄魂を失くした政治家達の時代がこの沖縄の自治を自らの手で手放している現実の深刻さをも知らされます。然し、沖縄の大半の民衆は**新基地NO**の闘いをこれからも続けるでしょう。誰よりも平和を求めている民だからです。ミサイル配備、日米合同訓練、軍事力拡大が急速に進められている今、沖縄の民と共に日本国民の責任ある一人一人として共に祈り、闇の力と闘って参りましょう。

## ☆人類の課題

進歩って何だろう、進歩によって失われたものは沢山ある。人は失ったものを取り戻そうとして昔の生活に帰ろうとする。然し、人間は未知の世界への憧れと探究を止めることは出来ない。限りない欲望を止めることは出来ない。人類の歴史は繰り返す。戦争を!!イスラエルとパレスチナ、二つの国が平和的に共存する世界をどうしたら作れるのかに人類の未来がかかっている。

★平和かな亀に領土の野心なし(90歳 中沢昌平)

### 《うるま島ぐるみの活動から》

◎勝連分屯地に地対艦ミサイル部隊・ミサイル連隊本部を配備、ミサイル配備がってんならん!!署名運動を展開しています。多くの市民が、ミサイルのこと知らなかったと言い、またこの事実に関心を持った人たちが署名して下さい。署名活動は時間と足を使い厳しいですが頑張っています。このような地道な活動が市民にうるま市の現状と市政、市長のあり方などへの気付きを与える大切な市民運動であることが分ります。内側に入り込む活動の必要性を痛感し、市長選にもつながっていくと思っています。

**辺野古基金のために** 引き続き御協力お願い致します。

○つながるかうつぐみの会(大野悦子:福生市在住)

リサイクル着物からの作品:(\*大・小の手提げ袋\*マイバック\*洋服など)

○あみの会(山田博子:うるま市在住)

リサイクル系の作品:(\*各種帽子\*アームカバー\*ルームシューズなど)

リサイクル着物、糸と不要になったセーターなどの提供と作品販売に御協力下さい。

**提供下さる方は必ずご連絡下さい。** 両窓口:石原つや子

〈連絡先〉〒904-1115 うるま市石川伊波 1180-5 石原つや子

自宅:098-964-3237 携帯:090-4471-1942

Email: [yuuwanoie@tg7.so-net.ne.jp](mailto:yuuwanoie@tg7.so-net.ne.jp)

〈振込先〉ゆうちょ銀行 記号:12260 番号:12650271 イシハラツヤコ

